



## 配車計画の効率化に向け 運行状況の“見える化”を推進

運送事業者の配車担当者は、配車計画を効率良く組むことが日々の課題になっています。そのためにも、ドライバーの拘束時間の短縮や車両1台あたりの生産性向上が必要ですが、できていないのが現状ではないでしょうか。そこで今回は、配車計画の効率化に向けた課題とそれに対する施策案について船井総研ロジ株式会社の石川章弘氏に解説してもらいます。

### 拘束時間の短縮や生産性の向上を妨げる原因とは

配車計画の効率化に向けて、ドライバーの拘束時間や運転時間の短縮、1台あたりの生産性向上を図らなくてはなりません。しかし、荷主企業のリクエストが多様化していることから、短縮化が難しくなっています。

また多様化は、1台あたりの生産性低下にもつながっています。ではなぜ、このような状況に陥っているのか？主な原因を2点あげてみました。

#### ①納品時間指定による前日積みで、ドライバーの長時間労働および車両稼働率が低減

荷主企業から「どうしてもこの時間に配達して欲しい!」という要望に対応するためには、朝積みだと間に合わず、また荷捌き場も対応できないため、前日積みを行う必要がでてきます。その場合、ドライバーが長時間労働を強いられ、車両の稼働率は低減します。

#### ②複数配送先によるドライバーの拘束時間の延長

荷主企業から「運賃コストが合わないので、この納品先分も一緒に配送して欲しい!」という要望に対応しようとすると、ドライバーの拘束時間(運転時間や荷降ろし時間、納品先での待機時間)が長くなります。

以上が配車計画の効率を低下させる大きな原因です。このような状況になっているのは、荷主企業の営業戦略の影響が強いととも、運送事業者の実態を把握

していないこともあげられるでしょう。運送事業者が厳しい環境下に置かれている実態を知ってもらうことで、荷主企業の認識も変わってきます。

### 配車管理システムを導入して運行状況を“見える化”

では、どうすれば運送事業者の実態を把握してもらえるのか？その効果的な手法として、『配車管理システムの導入』があげられます。同システムを活用すれば、荷主企業からの配送リクエストに対応している各ドライバーの運行状況をデータ化し、“見える化”できます。データをもとに荷主企業に、いかに効率性・生産性の低い運行となっているかを訴えることができ、その改善

を要求することも可能でしょう。また、自社内でも荷主企業からの依頼を受けるべきか、止めるべきかといった経営判断もできます。配車管理システムの導入は、今後取り組むべき施策案のひとつになるでしょう。

以上が、配車計画の効率化に向けた課題と施策案です。運行状況の“見える化”を実践し、配車計画の効率を高めてみてください。